

事業名 CD	0403010101	たな卸し資産管理事業		
細分化した事業名				
事業担当課室 CD	300300	上下水道課	整理コード*	

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	快適に暮らすための生活環境の充実		
	中項目	上下水道の整備		
	小項目			
関連する個別計画等	韮崎市水道事業経営変更認可(第8次拡張事業計画)	根拠条例等	水道事業の設置等に関する条例、水道法、地方公営企業法	
関連する事業				

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	たな卸資産を適切に管理し、効率的な活用を図ると共に死蔵品の解消を進める。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	水道メータや修繕要備蓄品などの備蓄資産
これまでの改善経過	H22年度死蔵品の調査をし、実態を把握
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	<p>〈実施・運営方法〉 <input checked="" type="checkbox"/>市 <input type="checkbox"/>委託 <input type="checkbox"/>補助金 <input type="checkbox"/>その他()</p> <p>死蔵品の売却をする。 備蓄計画書を作る。 たな卸しを年1回から半期に1回に増やす。 災害時に必要となる物品は、極力保持せず、レンタル業者から優先使用权を確保する。</p>
事業の成果 (どのような状態にしたのか) (どのような効果を得るのか)	備蓄数量の監視が常にされている状態を作ること

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20年度	21年度	22年度
A	事業費 (千円)	7,561	5,081	4,920
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	市債			
	その他			
	一般財源	7,561	5,081	4,920
B	担当職員数(非常勤 職員E) (人)	0.02	0.02	0.02
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	138	136	134
D	総事業費(A+C) (千円)	7,699	5,217	5,054
*参考	H22)市民1人当りの事業コスト	162 円	H22)市民1人当りの行政サービス費用	599,027 円

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。

注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)、22年度(6,719千円)を使用しています。

注3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実 績 値		
			20 年度	21 年度	22 年度
活動指標	たな卸資産額	たな卸資産年度末残高	7,775 千円	7,468 千円	7,626 千円
成果指標	貯蔵品回転率	$\frac{\text{当年度消費高}}{\text{(期首+期末たな卸高)} \div 2}$	66.82%	66.67%	65.19%
効率指標	貯蔵品回転率の改善 (貯蔵品の在庫に対する 使用率)	$\frac{\text{当年度貯蔵品回転率}}{\text{前年度貯蔵品回転率}}$	-19.9	-0.15	-1.48

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 妥当である <input type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 貯蔵品回転率による管理を取り入れ、無駄な在庫をなくす事務を実施する事は必須である。		
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C 上がっていない 貯蔵品回転率の低下が続いており管理面に問題がある。		
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 効率的である <input type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 事務コストの増減に係わらない		
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input checked="" type="checkbox"/> C 期待以下の達成		
今後の事業展開	<input checked="" type="checkbox"/> 重点化 (コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 手段の改善 (実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化 (結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化 (事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合 (他の事業と統合する、または廃止する) <input type="checkbox"/> 現行どおり		
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性 (いつまでに、どういう形で具体化するのか)		
	(1) 中長期的 貯蔵品回転率300%を目指す	(2)24 年度 経過観察をしつつ必要に応じ管理方法を改善する。	(3)23 年度 管理方法の改善
	22 年度の改善計画 H23 新規事業		
	22 年度の改善結果 H23 新規事業		
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること) 災害時の貯蔵品の融通は水道事業体相互に融通の協定を結んでいる。			
課長所見	棚卸資産は緊急時への即応力を高めるための手持資材であり、安全安心のためにはある程度の保持も必要であるが死蔵の発生が無いかどうか台帳管理をしっかりとすべきである。		